

# 日本の4-6月期実質GDP成長率は年率+6.0%

～純輸出が大幅にプラス、内需はマイナス～

## ◆4-6月期は3四半期連続のプラス成長

8月15日に公表された日本の2023年4-6月期実質GDP(国内総生産)の一次速報値は、前期比+1.5%、年率換算では+6.0%となり、市場予想(年率+2.9%)を大きく上回りました。1-3月期も年率で+3.7%と前回発表の同+2.7%から上方修正され、3四半期連続のプラス成長となっています。

4-6月期の成長率は市場予想の上限をも上回るサプライズとなったものの、成長の中身は強弱入り混じるものとなりました。前期比+1.5%の内訳が内需の寄与度が▲0.3%、外需が同+1.8%となったほか、外需の寄与度は輸入減少が同+1.1%と輸出増加の同+0.7%を上回っており、内需の弱さを印象付けました。

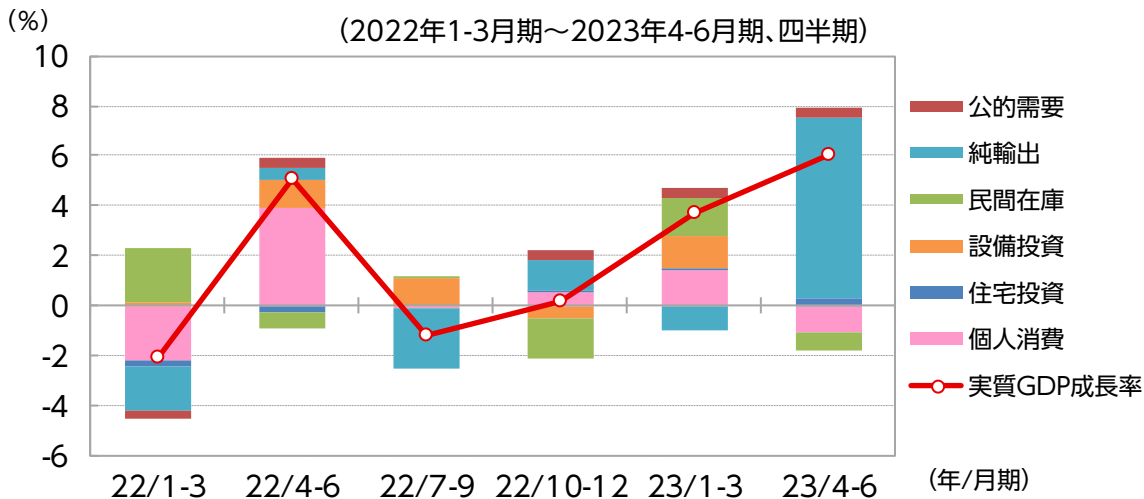
個人消費は前期比▲0.5%となり、市場予想(同0.0%)を下回りました。コロナ禍での巣ごもり消費の反動に加え、物価高による実質賃金の伸び悩みが影響した模様です。設備投資も同0.0%と市場予想(同+0.4%)を下回りました。一方、住宅投資は同+1.9%と伸びが加速しました。公的需要も公共投資の伸びを背景に同+0.3%となりました。民間在庫は2四半期ぶりにマイナスとなり、成長率を押し下げました。

輸出は前期比+3.2%と2年ぶりの高い伸びとなりました。半導体など部品不足の解消が進んだ自動車がかげん引役となったほか、サービス輸出に含まれるインバウンド消費の増加が押し上げました。輸入は同▲4.3%と2020年7-9月期以来の大幅な落ち込みとなりました。原油など資源価格の高騰が一服したことが大きいとみられる一方、国内の需要の弱さを反映した面もありそうです。

## ◆今後の注目ポイント等

4-6月期の日本の成長率は前期比年率+6%となり、米国の同+2.4%、ユーロ圏の同+1.1%を大幅に上回りました。こうした「高成長」が続くとは考えにくいものの、今後も安定した成長が続きそうです。内需は賃上げ効果や食品値上げ一巡による消費回復に加え、企業の設備投資の持ち直しが見込まれます。外需は団体旅行解禁による中国人客の増加が期待される一方、欧州や中国の需要減少がリスク要因となりそうです。

図表 日本の実質GDP成長率寄与度推移(前期比年率)



(出所) 内閣府のデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。